



樋口 重喜 議員

公金の無駄使いを廃する入札制度改革・健康立村に向けた村民の健康管理と医療費増加に対する改善策及び児童・生徒の通学路の安全対策について

◆公金の無駄使いを廃する入札制度改革(随意契約を含む)について

Q 昨年、平成27年度の競争入札による工事請負件数は11件で、総額は税抜きで4億6,160万円であった。村が設定した予定価格を落札価格と比較した場合、いわゆる落札率の平均は98.8%という他に比類のない高落札率である。中で番低いものは97.0%、また、一番高い落札率は紅富士の湯リニューール工事で、3億円を超過する工費が99.8%と、ほぼ100%で落札されている。全く世間に恥ずかしい限りであり、納税者、村民が、工事金額、落札業者99.8%の高落札率の実態を知ったならば、恐らく怒り狂うのではないかと。また、工事請負額のさらに数倍になる委託費や物品購入の契約内容は、複数社による競争入札でなく、随意契約で行われ相見積のないものも多い。添付してある理由書も形式的文言であり、明らかに財務規則に違反している。公金支出執行の最高責任者である村長は、自治法第2条や財務規則に違反している事実をどのように認識し、どのよう改善策を考えているのか。改革姿勢の明確な回答を求めます。

村長 高村文教

村では現在、入札公告の際、予

定価格の事前公表を行っている。予定価格の事前公表については、法令上の制約がないことから、今後、村として予定価格の公表について検討して参りたい。

随意契約については、契約担当課を中心に、財務規則にのっとり事務事業を遂行している。しかし、樋口議員から指摘のあったことについては、十分理解し、随意契約理由の検証、見積り比較をさらに徹底して参りたい。

Q 指摘した本村の工事請負平均落札率が98.8%という高どまりの事実を、村長は異常だと感じているのか否か。異常であれば、どこに原因があるのか。それをどのように改善していくのかを回答すべきである。もし落札率を長野県並に目指せば、10%カットでき、全体で約2億円以上の税金の節約が見込まれた。

塩素水増し事件で発生した2億5,000万円の損失のごく一部を補填する名目で村長の給与を減額したり、また、職員に不当な負担を促すのではなく、職員一丸となって入札体制の抜本的な改革を行い、厳格な運用を行うことこそ、何よりも求められている。みずから襟を正すと宣言された村長の明確な回答を求めます。

村長 高村文教

入札関係については、いろいろなご指摘、また、進言をいただきました。そういうものを謙虚に

受け止め、検証に入って参りたい。

◆健康立村に向けた村民の健康管理と医療費増加に対する改善策について

Q 村民が健康で実のある人生をなすべく長く過ごすことができる村にすることこそ、健康立村の基本であるべきだ。病氣治療にお金がかかるのはやむを得ないとするのではなく、夕張市や大牟田市の事例に学び一歩進んで、村の財政負担の軽減と、村民が健康に暮らすことができる施策を立案すべきだと考えるが、村長の見解を伺う。

村長 高村文教

乳幼児期においては、乳幼児検診時の個別指導の中で減塩等の食育指導を実施し、また、学童期においては、学校との連携を図りながら、食育指導を実施していく予定である。壮年期の健康づくりについては、特定検診の受診率は40%であり、受診率を向上させるために、対象者への受診勧奨の徹底、また、受診しやすくする工夫として、受診日をふやすなどの努力をして参り、介護保険法に基づく運動教室の実施や後期高齢者健診の実施により、循環器疾患への支援をしていきたい。

◆児童・生徒の通学路の安全対策について

Q 当村の通学路の一部を視察してみたが、通学路でありながら、車両と接触する危険な場所も多く見られた。また、歩道が設置されていても、歩道が雑草に覆われて、かえって足元が危ない箇所もあった。

昨今は、保護者による車の送り迎えも多いが、基本は村内を徒歩通学とし、途中で地域の出来事を発見したり、地域の人々との温かい交流や、また、観光客との気軽な交流を通し、生きた社会学習の機会を多くしてほしいと思う。交通教育では右側通行だが、村内の狭い道路でも、片側でもよいから路側帯等を設け、村の宝である児童・生徒が毎日安心して通える通学路の確保を提案するが、現状認識と改善策を伺う。

村長 高村文教

平成27年度に策定された村通学路交通安全プログラムに基づき、国・県・警察と連携を図り、児童・生徒が安全に通学できるように通学路の安全確保を進めてきた。村内全域を1年に1回、合同点検を実施している。今後については、継続的に通学路の安全を確保するため、合同点検を実施するとともに、対策実施の効果把握も行い、対策の改善・充実を図っていきたい。